

さすけねえ

心の復興のために。さすけねえからはじめよう！

発行元：福島復興心理・臨床教育
センター
所長 橋本和典

第2号

発行日 2013年11月

短い秋がすぎ、冬の足音が聞こえてきました。福島復興心理・教育臨床センターでは、開所から約3カ月たち、新しい試みが始まっています。10月には「みんなで学ぶ」コミュニカレッジの開講、福島のこれからを考える町おこしミーティングなど、スタッフ・市民の方・学生・企業人、だれでも参加できるプログラムが開かれました。今号では10月に行われた各プログラムの様子をお伝えします。

【センターの活動】 コミュニカレッジ開講！

10月27日、福島センターで、コミュニカレッジが開講しました。コミュニカレッジとは、こどもから大人までだれでも通える市民大学です。コミュニカレッジが目指すものは、心の復興を進めるために、「震災ストレスに負けない心が元気になる対話の力」です。この力をアップさせるために、さまざまな専門分野の体験型ワークショップで学びを進めます。

開講記念として東京大学大学院数理科学研究科准教授の白石潤一先生をお招きし、「量子力学の面白さ」というタイトルで講義をしていただきました。聞こえは難しそうですが、作図もあり、体験しながら学ぶ興味深い講義でした。

台風の影響が心配された10月末、集まった参加者と和やかな雰囲気が始まりました。朝一ということで白石先生から「体を動かそう」と提案があり、全員が立って数字遊びをするなど白石先生独特の語り口とペースで進んでいきました。

はじめに白石先生から「1とは何か。みなさんの気持ちを語ってください」と問いがありました。普段考えることがないですし、そもそも正解はあるのでしょうか。1とは〇〇であると答えをおいてみるけれども、なんだか違う気がする。同時に先生は、「1=アイデンティティ」とホワイトボードに書かれました。そして「アイデンティティを確立してください」と。私の心の中で、もやもやが始まりました。

講義は作図とともに進んでいきました。どの作図もまず点と線をひいて、1を決めます。それが自分のアイデンティティです。紙の上にスッと線を引き、アイデンティティを決めることはなんて簡単なのだろうと驚きました。

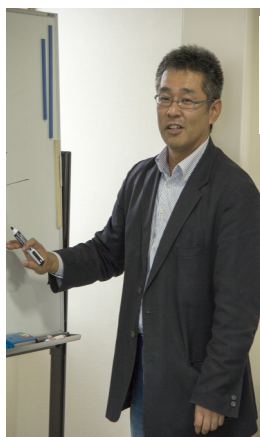
白石先生は、「量子力学はとびとびの世界を記述するもの」とおっしゃり、いくつかの作図と量子力学にまつわるお話を、まさにとびとびに進められました。講義そのものが量子力学的体験です。途中、「もやもやします」という参加者の声に、あっさり「そういうものです」と答えられ、講義の終わりには「量子力学はもやもやするものだということが伝わったと思う」とお話しされていました。

私たちは普段、もやもやがあると落ち着かず、すぐに解決したくなります。あるいは見ないように、感じないようにしているかもしれません。しかし、「もやもやがある。そういうものだ。」と心の中に置いてみると、不思議と関心がわきワクワクする感覚が生まれます。私たちは、「わからないものを何とかしよう」と躍起になりすぎて、いろいろに体験できる面白さを見失っているのではないのでしょうか。もやもやを体験し、1と決める。このことがアイデンティティの問いとつながりました。

最後、オーガナイザーの小谷先生が「このもやもやは、東北のあちこちにある」とお話しされました。震災後、街も人々も、もやもやを抱えているのかもしれませんが、自分の心の中に、あるけれども見えないもやもやを、どう取り出し、どう付き合っていくのか。心の復興に通じるものがあると感じました。

量子力学という専門分野、聞こえは難しいですが、数学好きな人には数学への思いが再びかきたてられ、苦手な人でも「もやもや」を楽しめる。それだけで心が元気になり、頭も柔らかくなります。心の復興には、正しい知識と、一人一人の知恵を使い、しっかり現状に対応していくことが大切です。学びながら元気になり知識・知恵をつける。このカレッジが知の発信拠点になっていく可能性を感じた開講記念講演でした。

(吉田愛)



左：白石潤一先生
下：講義の様子



「さすけねえ」

本紙は福島復興心理・教育臨床センターの活動をお伝えるニュースレターです。

このタイトルは、あきらめの意味の「さすけねえ」ではなく、「そこに暮らす人々の心の復興のために立ち上がる力を。」との思いを込めて名付けました。今後も定期的に発行していく予定です。ぜひご覧ください。

Facebook始めました！

<https://www.facebook.com/pages/福島復興心理教育臨床センター/592857660762337>

ぜひご覧ください！

**【センターの活動】 みんなで元気になるサポートグループ**

心の専門家と、集まったメンバーで自由に自分の気持ち、思いを語り、ストレスの荷卸しをし、心の元気を高めていきます。

10月26日のサポートグループには、4名の方が参加されました。郡山市在住の80代の女性から、サポートグループリーダーである橋本氏に「(ここで話したことは)どこまで届くのですか。」と問いがありました。そして、今の福島の現状やそれにまつわる思いから、地元の声を中央に届けたい、地元の状態を伝えたい、ということがエネルギーに語られました。原発に関わる問題、地元への愛情、若い人たちへの期待、教育への希望などが思い思いに語られました。怒りとの付き合い、届けたい声を上げる。未来について真剣に考える、熱気あふれる空間でした。
(聞き手 田中令子)

お知らせ**町おこし忘年会開催！**

福島を担う皆さんと、食べたい・飲みたいものを持ち寄って、心があたたかくなる忘年会を開きます！

日時：12月21日(土) 19:00～21:00

場所：福島復興心理・教育臨床センター

参加費：1000円

*事前の連絡は不要です。当日お気軽にお越しください！

リレー講演 第4回

「放射線被ばくと作物の現状と将来」

日時：12月22日(日) 10時～12時

場所：福島復興心理・教育臨床センター

講師 田野井慶太郎 氏

東京大学大学院

生命農学生命科学研究科准教授

連絡先

電話：03-6407-8201

携帯電話：080-3606-0640

ご関心のある方は、お気軽にお問い合わせください。

センター開室日

2013年 12/21(土)、22(日)

2014年 1/25(土)、26(日)、2/15(土)、16(日)、3/1(土)、2日(日)、15(土)、16(日)

【福島心の復興協議会】 町おこしミーティング

「町おこしミーティング」とは、センターに集まったメンバーとスタッフで、福島に暮らす一人一人が元気になる知恵を出し合い、実際のアクションを起こす協議会です。10月27日(日)にその第一回目が行われました。今回は、センター事務局長である花井先生の体験レポートをお届けします。

10月27日(日)の午後、福島復興心理・教育臨床センターにて、福島心の復興協議会の町おこしミーティングが行われました。センターの臨床スタッフ、大学教員、役所の職員、企業人、学生が集まりました。新たな知を生み出すために世界中から科学実践者、思想実践家があつまる大学院大学を郡山市に設立する計画が、実に真剣に話し合われました。

会の初め、参加者からは、「孫に何もなかったじゃないかと言われたくない。」「日本の中で福島が見捨てられるのではないか。」「このままだと福島から若者が外に出て行ってしまう。」「希望の象徴がない。」「政府や役所の出す情報が信用できず悪い情報ばかり集めてしまう。」「東京には福島の生々しい情報がほとんど入ってこない」などと、それぞれの立場から、不安、寂しさ、怒りを伴い福島への想いが語られました。

ミーティングでは、その現状から諦めに向かうのではなく、立ち上がる方向に向かうために、未来を生む知とそれを担う次世代を生み出す、「高等科学大学院大学」の設立に向けて知恵を出し合いました。「世界の最先端の知が集まる拠点を作ろう」「廃炉の研究拠点を作ろう」「危機における組織リーダーシップの研究が福島だからこそ、実践しながら研究できるだろう」と意見が出ることにより、研究領域のアイデアが並び、設立に向けてキー・パーソンを挙げ、次の行動計画が立てられました。

現状の問題も、それも伴う気持ちも一人で抱えず、共有し、そして、引き受け、次の行動案が次々生み出されていく力強さが、その協議会にはありました。真剣さの中に、それぞれのおおらかさ、持ち味、情熱が立ち現われたのです。これこそ、マイナスの福島をポジティブな福島に転換するために、必要な町おこしの姿ではないかと、想いを強くしました。今後も続けていきます。皆さんの智恵を貸してください。共に福島の明日を切り開いていきましょう。

福島復興心理・教育臨床センター 事務局長 花井俊紀



町おこしミーティングの様子

【参加者の声】 センターの活動に参加された方の感想をご紹介します。

今回は、星郁夫さんからお寄せいただいた感想をご紹介します。星さんは、センターの町おこしミーティングスタッフとしても活躍してくださっています。

みなさん、いってみなんしょ！

福島センター(略)が開所した9月22日は、閑とした雰囲気…。ほーか、今日は、皇太子ご夫妻が郡山を訪れる日だと納得。それでも、迎えてくれた方の第一印象はこんな感じ、「よぐきらったなし、さあ、あがってくなんしょ」と和やかです。

さて、9月は感動の連続でした。始まりは8日、2020年(平成32)のオリンピック・パラリンピックの開催地に東京が選ばれたこと、日本中が喜びに沸いた日。14日は、JAXAイプシロンロケットが内之浦スペースセンターから打ち上げ成功！宇宙へ向う、大気を切裂く閃光と力強い加速に誰もがNIPPONを実感した日。締めは27日、東北楽天ゴールデンイーグルスが悲願のリーグ初優勝を決めた日だ。被災地の我々は、最も勇気を貰ったと思います。共通しているのは、「優しさ」と「力強さ」でしょう。立場の違いなどはあっても、「不撓不屈の努力こそ、能く、最後の勝利を占める。」(舟橋聖一)と。

しかし、僕自身の感覚は一過性です。何処か、後塵を拝するようで…。何故か…、今この地に充満する、言わば見えない「ダークマター」(暗黒物質)のようなものを感じてしまう。アインシュタインよりも前の時代ですが、光は「エーテル(Ether)」が媒体となって伝播すると。つまり、天地の輝きもエーテルが在ってのことだと。そう、「(イスカダルの)コスモクリーナー」で、忌まわしきダークマターを総てパーズして、新たなエネルギーで満たしたい!!

軌道修正です、紙幅も尽きたようです。かつて、日本の宰相は「子どもに夢を、若者に希望を、老人に安心を」、それが責任だと。それはそれとして、福島センターのファシリティに期待を持っている。次代を担う若い人たちへは、信頼のロケットランチャーであってほしい。既に人生の達人たちには、ロマンを語れる安全基地になって戴きたいと思います。

みなさん、福島センターへ行って一緒にコスモクリーナーを創りましょう。そして、いつの日か、FUKUSHIMAから「巨艦ヤマト」を宇宙へ発進させよう。“Be ambitious!!”、野心的であっていいと思う。(星 郁夫)

福島復興心理・教育 臨床センター

センター所在地:

〒963-0115
福島県郡山市南1丁目45番地
公益社団法人 全日本不動産協会
福島県本部内

相談窓口

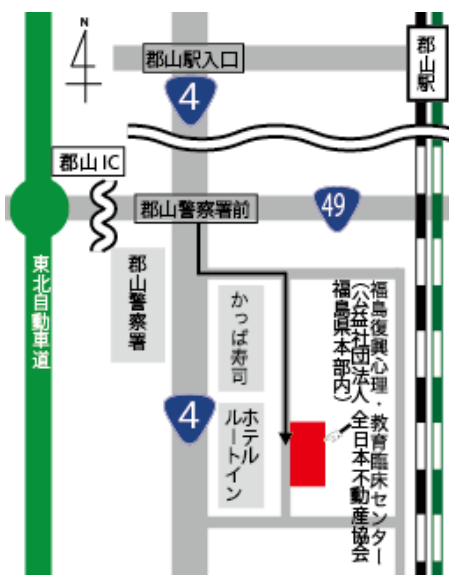
〒153-0041
東京都目黒区駒場2-8-9
PAS心理教育研究所 非営利事業部
(担当:中村・橋本)

電話: 03-6407-8201

携帯電話:080-3606-0640

お気軽にご連絡ください。

アクセス



郡山駅下車。駅から約3.7km。車で約5分。
郡山ICから約7.5km。約10分。
駐車場(40台駐車可能)がございます。

PAS心理教育研究所非営利事業部って？

仙台にある「震災復興心理・教育臨床センター」(通称: EJセンター)へのスタッフ派遣本部です。「福島復興心理・教育臨床センター」のスタッフもここから派遣されます。

<http://www.fukushimafreeclinic.com/>
ウェブサイトもご覧ください。